



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 45

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 45. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1956, 45: 9-14

ISSUE DATE:

1956-06-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186825>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No.45

1956.5月(6月8日)

録 事

例年より早目にやってきた梅雨のため、中旬頃より1日おきの雨天が続く。この好期をとらえて、17日9時より実験所水族館全取員の勤務奉仕によって、構内の北部山林中よりマサキ等の苗木約150本を探し出し之を南側の正門より水族館に至る海岸道に沿って空所に植栽した。今回は正門より研究室南側までの範囲にとどめたが、次回は研究室より番所山に至る間に及ぼし、南側の防風林を強化する予定である。

年々観光客や修学旅行団体がふえるに従って、春秋の観光期や休日には弁当殻や紙屑があちこちに散乱し、風致上見苦しいのでこれを清掃焼却する人夫を番所山植物園と共同して、毎月20日位作業する契約で傭い入れることとなった。

又、^館実習室裏手と水族^館裏手に~~1.2m~~平方の塵埃焼却場を設置した。前者は一重壁で $1.18 \times 1.29 \times 1.05 \text{ m}^3$ の大きさ、後者は二重壁で $1.41 \times 1.53 \times 1.15 \text{ m}^3$ の大きさである。

かねてより懸案の消防ポンプを購入し、不時の火災に備え万全を期することとなった。

一応設置したものは

VE-II型 6.5馬力 消防ポンプ (東京発動機K.K製)	1基
吸水管(7尺物)	3本
ストレーナ塵籠	1組
町野式管槍	1本
麻製放水ホース(60尺物)	7本
ヤマト式泡沫消火器(日本商会製)	3基

22日午後納入元技術者指導の下に、近隣の人々や取員家族にも集ってもらい、総動員で試運転を行ない、臨海初の消防訓練を実施した。成績は頗る良好で、防火用水としては水族館前の淡水池や海亀プールがあるし、海岸にも近いので直接海より海水をとることもできるが、将来は構内東側にも大きな防火用水池のあることが望ましい。ともかくも年来の希望が達せられたので近隣の人々も大喜びである。これを機会に毎月2回当番を定めて、交代でポンプの試動を実施し、火急の場に備えることとなった。

11日隣接の番所山植物園に設けられに動物園の園式が山上で挙
げられた。これで臨海一帯は名実共に白浜における文化的観覧施設の
センターとしての一般の期待が大きい。

今月より毎月1回水族館職員が相寄り、お茶を飲みながら話し合う機
会を持つこととし、第1回例会を20日閉館后開いた。今後毎月さつかえの
ないかぎり20日を定例日と定めた。

27日内海常務委員は全国臨海実験所長連絡会議に出席のため東上
帰途水族館改築計画の参考採資するため、上野動物園水族館、江ノ島水族
館、静岡県三津水族館、愛知県新舞子の東大農学部附属水産実験所を視察
し、6月3日帰白した。各地の水族館を視察してみても、最も参考に値する
所は新舞子の水族館であるように感じられた。

4月23日と5月7日の両日2班に分れて恒例の春の日帰り旅行を
した。23日の班は新和歌の浦、7日の班は御坊に行ったがいずれも雨に
たたられどうしだったのは残念だった。

業 務 概 況

◎ 5月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	11020	24693	19808	45265	30828	69958
小 人	416	2037	204	795	620	2832
団 体	18134	31437	—	—	18134	31437
合 計	29570	58167	20012	46060	49582	104227
入場者	白浜保育園児童他					110

団体：一般 193組， 学生 40組

計 233組

◎ 5月の事業収入

		累 計
観覧券売上金	901,690	1,932,884
雑 収 入	1,480	1,620
4月よりの繰越	802,626	—
計	1,705,796	

◎ 5月の支出
水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	68,227	1,123,904	
金銭費	33,099	61,769	
備品費	—	—	
消耗費	15,290	19,900	
事業費	48,805	68,135	
維持費	21,015	222,85	
其他諸経費	36,397	74,968	
積立金	152,479	326,543	
合 計	375,312	697,504	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	10,000	10,000	内海委員
奨学金	5,000	10,000	
合 計	15,000	20,000	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	5,300	10,000	
合 計	5,300	10,000	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
消防器具一式	196,000	196,000	
合 計	196,000	196,000	

支出合計

水族館経費	375,312	697,504
実験所経費	15,000	20,000
博物館経費	5,300	10,000
臨時費	196,000	196,000
計	591,612	923,504

5月末現在高 1,114,184
 支出累計 923,504

◎ 前年度との比較

	1955	1956	増 減
入場者数	39,436	49,582	+ 10,156
売上金	748,314	901,690	+ 161,376
支出金	268,259	591,612	+ 323,353

水族館記事

- ◎ 例年梅雨期は魚類の入槽は減るけれども、今月は割合よく補充ができた。
- ◎ その中珍しいものを挙げると、目方5匁、体長1.8㎝に及ぶ巨大なウシエイがNo.24水槽におさまり、真黒い巨姿が同居のアカエイ、サカタザメ等の群を圧している。
- ◎ 19日 コバンザメ1匹がNo.26水槽に入ったが一週間ほどで死ぬ。
- ◎ 水族館の立役者であるエビスダイが8日死亡した。これは1954年5月27日入槽のもので、満2年あまり観客の眼を楽しませた。ほとんど同時に入れ替り入ったエビスダイの子は眼と背びれの部分に白斑を生じたので治療を加えているが容易に癒らない。

◎ 新参をボイコットして何時も槽内で縄張り争いをしていてマダコが1匹/4日死亡した。

◎ 30日シロザメ1匹, 31日ネコザメ1匹が死亡した。

資 料

◎ 5月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(11)	6	2	3
気 温 (C°)	<u>16.9~23.0</u> 19.9	<u>16.3~23.0</u> 18.3	<u>21.5~22.8</u> 21.7
水 温 (C°)	<u>18.3~20.5</u> 19.4	<u>19.3~20.1</u> 19.7	<u>21.2~22.0</u> 21.7
比 重	<u>23.0~25.0</u> 24.2	<u>23.3~24.8</u> 24.2	<u>23.4~25.0</u> 24.3

但し { 気温は南水槽室
水温 } No. 25水槽
比重 }

※ 今まで資料は10時の測定によりましたが5月11日より新しい気象観測時刻にならって9時の観測に致しました。

◎ 初旬のGolden weekにおける入場者数の比較

	1955	1956	備考
1 日 (日)	2150	1736	
2 日	1757	1232	
3 日 (祭)	1718	1854	
4 日	1114	1281	
5 日 (祭)	1509	2774	
6 日	947	3146	
計	9195	12023	+ 2828

来 訪 録

5月8日 東海区水産研究所技官 猪野 峻博士 アラフラ海へ
出漁する真珠貝漁業船団の監督官として、11日串本より出航
される機会に来館。アメリカの水族館について参考となるお
話を伺う。

5月23日 堺市立水族館長 平興三松氏 来館。

同日 大阪日日新聞社 宮川彰男、中井司郎氏 水族館の魚
類撮影のため来館。

5月24日 読売新聞大阪支社の竹内 薫、古沢公太郎、水谷昭士
氏等 アクアラングを使用しての海中撮影のため来館。30日迄
予備的撮影を試みる。

5月30～31日 兵庫縣水産試験場長 井上喜平治、全技師 洪口章、
神戸市交通局技術工務課管繕主査 大内茂の3氏 来館。
(須磨海岸に予定されている水族館の設置計画のため)。

昭和31年6月8日発行 (No.45)

編集兼
発行人

内 海 富士夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
和歌山県 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜温泉 515)